令和2年度 認知行動療法サポーター養成講座/自殺予防ゲートキーパー養成研修

学習支援における発達障害との関わり

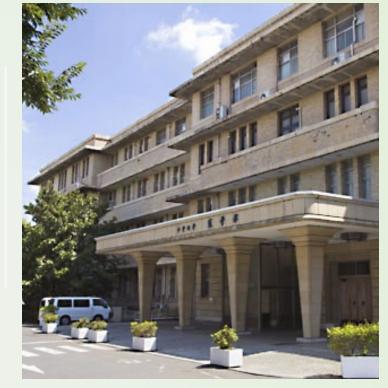




株式会社ライデック



さくらんぼ教室



千葉大学

塾講師や家庭教師など 子どもの学習支援 10年以上

自己紹介(経歴)



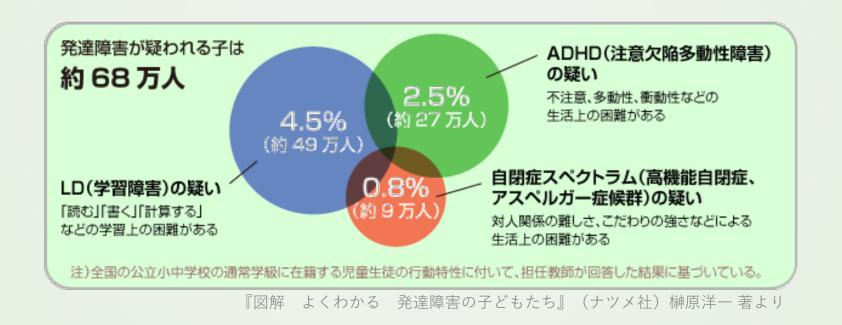
本日の内容

- 1. 発達障害児の学習支援の難しさ
- 2. 学習支援の課題と限界
- 3. 専門機関ができる学習支援
- 4. 発達障害支援の30年間の取り組み(さくらんぼ教室より)
- 5. これからの学習支援の在り方について



発達障害は認知され始めた

・通常学級でも30人に2人は発達障害?



小中学校の担任が「学習面や行動面で著しい困難を示す」と感じた児童の割合は 6.5%



発達障害は認知され始めた

"発達障害という言葉を聞いたことがある" ・・・ 91.5%

(教育関係者: 100%, 保健医療関係者: 100%)

"発達障害者に対する対応を知っている" $\cdot \cdot \cdot 26.5\%$

(教育関係者: 63.9%, 保健医療関係者: 42.9%)

発達障害のWeb質問調査の結果(n = 842)

『特別支援教育を推進するための制度の在り方について』(文部科学省) 2005~

「通常の学級に在籍するLD・ADHD・高機能自 閉症等の児童生徒への指導及び支援が喫緊の課 題である」

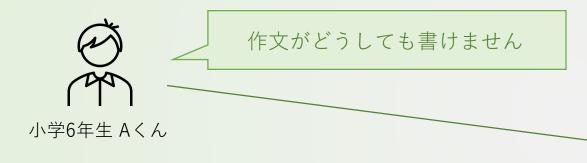


発達障害の言葉だけは知っているが、**対応までは知らないことが多い**



発達特性をもつ児童の学習支援

• 学習面で困難を示す子に気づく難しさ



- ✔ 大人しく真面目な性格
- ✓ 授業での発言は少ないが、友人とはよく話す
- ✔ 明らかな学力の遅れはない (発達障害の診断なし)
- ✔ 公立受験を目指すが、作文が書けないと悩んでいる

授業でよく見ていると…

- ▶ 作文では一文字目から手が止まり、 1行に相当の時間がかかる
- ▶ 課題を読むと、文字を目で終えていない
- ▶ 予習で教科書の漢字にルビが振ってある
- ▶ 作文の残りを宿題でやってくるが、 何度も文字を消した跡がある

あなたなら、どうしますか?



発達障害児への特別支援教育

• 発達障害の可能性がある児童 (6.5%)の支援状況

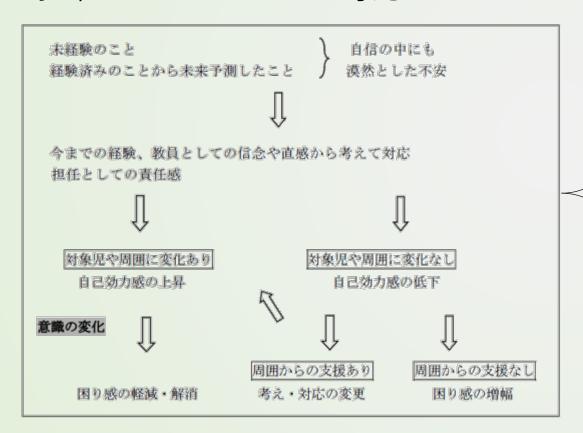
Q "校内委員会"における現在の特別な教育支援の必要性の判断不要79.0%Q 現在、通級による指導を受けているか?受けていない93.3%Q 個別の指導計画は作成されているか?作成していない85.6%Q 授業時間以外での個別の配慮(宿題の工夫等)を行っているか?行っていない67.1%

<u>いずれかの支援がなされている児童 = 55.1%</u>



学校から出てこない困りごと

・担任はどのように対応している?



インタビューから分かったこと

- ① 担任が一人で対応したケースが多い
- ② 校内全体のサポートより、個人的なサポート が担任の負担を減らしていた
- ③ 問題が大きくなってから動き出すケースが多い

教員は悩みや困りごとを**外に相談できない**



学校の困りごとは学校で解決する

• "学習の困り感" 教員はどこに相談する?

- ✓ "相談経験なし"が大多数を占める
- ✓ 相談先の多くはスクールカウンセラー

専門学校教員の相談先(複数選択) (n = 63)

学内では情報共有しても、外部機関に頼ることは少ない



医療機関も後手に回りがち

・すでに問題が顕在化

- ✓ 学力で大きく遅れを取ってから
- ✓ 二次的な問題が発生してから
- ✓ 学校に行かなくなってから

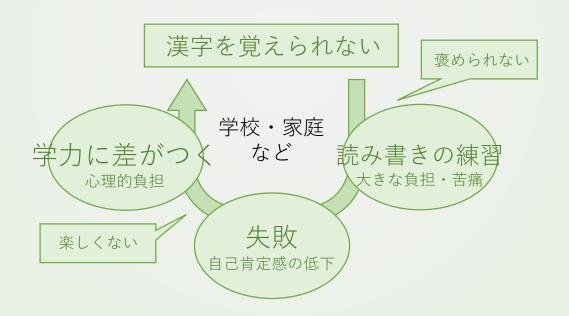




外部の専門機関の役割

• 「早期の発見」と「継続的な介入」で二次的な問題の発生を防ぐ

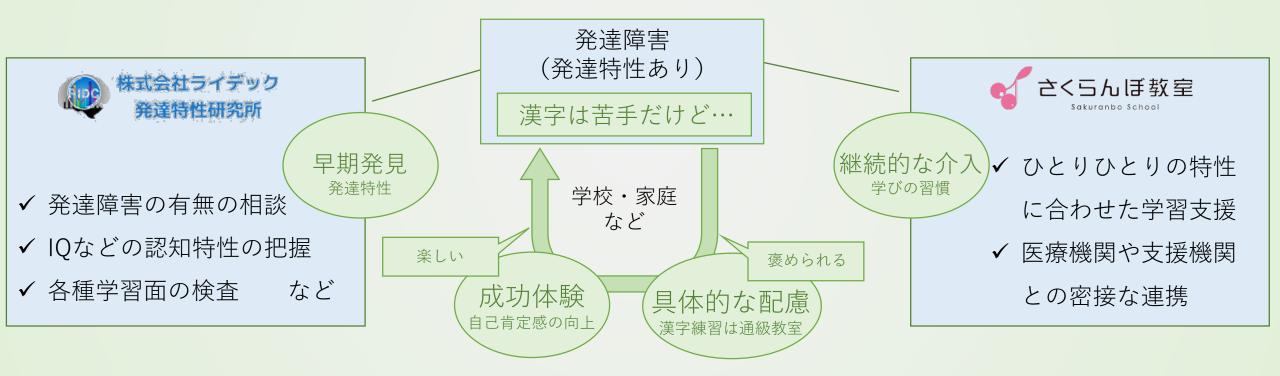
勉強が不得意な子?





外部の専門機関の役割

• 「早期の発見」と「継続的な介入」で二次的な問題の発生を防ぐ



発達特性を踏まえた学習支援は、専門機関のノウハウを借りることも選択肢の一つ

具体的な学習支援の例

・漢字の習得が困難なケース

お手本を見ながら文字を書き写したり、なぞり書きなど(試写法)の反復練習でなかなか習得できない



- ✓ 専門機関で検査を実施する
 - (1) 全般的知能検査
 - (2) 読み書きの習熟度検査
 - (3) 認知機能検査 など

「知的発達はどうか、発達の凸凹はあるか」

「読み書きの正確性や流暢性は保たれているか」

「記憶力はどうか。聴覚と視覚で差はあるか」

困難の要因を複数の検査項目から判断する



具体的な学習支援の例



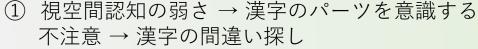
「十つぶの豆を口に入れて喜んだ」

飛ぶ

派派

飛ぶ

- 漢字の習得が困難なケース
- ✔ 個人の発達特性や認知特性を指導計画に生かす
 - ① 形の間違いが多い
 - ②意味の似ている漢字の間違いが多い
 - ③ 同じ音(読み)の間違いが多い
 - ④ 漢字が覚えられない (思い出せない)
 - ⑤ 目と手の協応が難しい
 - ⑥ ワーキングメモリが少ない
 - ⑦ 語彙が少ない



- ② 音から思い出せない → 漢字の仲間集め
- ③ 音と意味が結びつかない → イラストと対応させる
- ④ 視覚認知の強さを生かす → 漢字のパーツをつなげる 聴覚記憶の強さを生かす → 漢字のパーツに名前をつける
- ⑤ 目の問題 → ノートの工夫、フォントの工夫、定規や下敷き 掲示物(情報)を絞る、色使いを変えるチの問題 、ノートの枠の拡大 写真で振声を取る
 - 手の問題 → ノートの枠の拡大、写真で板書を取る
- ⑥ 重要な情報に絞る、記憶補助ツール(計算機など)を使う
- ⑦ 実際の経験から連想、文字と音・イメージを結びつける

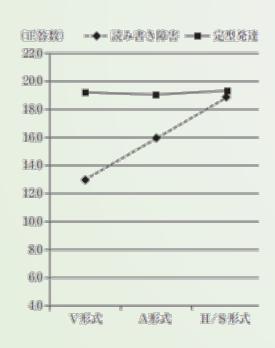
"漢字の間違い"だけで多数の学習支援の選択肢が考えられる



具体的な学習支援の例



- 漢字の習得が困難なケース
- ✓ 通級でDAISY※(デジタル録音図書)を活用





引用: (公財)日本障害者リハビリテーション協会(JSRPD)



これからの学習支援(まとめ)

発達障害者支援法(改正) 2016~

第一条「*発達障害の症状の発現後できるだけ早期に発達支援を行うとともに、切れ目なく発達障害者の支援を行うことが特に重要である」*

- ✔ 可能な限り発達障害児が発達障害児でない児童と共に教育を受けられるように配慮すること
- ✔ 個別の教育支援・指導計画は民間も含めた教育・医療・福祉機関が連携して実施すること

早期の介入のために…

- ✓ きちんとアセスメントを行う
- ➡□理解を深め、その後の支援につなげる

支援の継続のために…

- ✓ 外部機関とも連携する
- →□誰でも、気軽にアクセスできる専門機関

<u>学校や家庭で抱え込まず、医療や福祉も含めたチームで連携して学習支援を行う社会へ</u>



ご清聴ありがとうございました